

2006

M3 カリキュラム

Phase I 医学の基礎

「機能・構造と病態 II」

3 学期

シラバス

平成 18 年 12 月 15 日～平成 19 年 3 月 7 日

2004 年度入学 第 31 回生用

2005 年編入学 学士編入学 5 回生用

Phasel 医学の基礎
「機能・構造と病態 II」
シラバス

目 次

コース	Coordinator	頁
#10 腫瘍学総論	秋根康之、南 学、野口雅之	1
#11 医療と社会	戸村成男、大久保一郎 本田克也、田中栄之介	4
#12 精神系	朝田 隆、中谷 陽二	8
#13 医療と環境	我妻ゆき子、石井哲郎、 熊谷嘉人、土屋尚之	11

教 室

講義室	4A304
実習室	実習日の前日までに掲示
コアタイムのゼミ室	コースごとに掲示される班分け名簿に記載
テュートリアル発表会の会場	前日までに掲示

※ その他、変更のある場合は掲示でお知らせします。

コース#10 腫瘍学総論

Coordinator : 秋根康之、南 学、野口雅之
 Sub-coordinator 加藤光保、大原潔、植野映、
 徳植公一、寺島秀夫、木澤義之

開講時期：M3 3 学期（12 月 15 日(金)～1 月 11 日(木)）

1. 一般目標 (GIO)

腫瘍の人間への影響を知り、その対応を理解するために、剖検例における臨床経過、死因、腫瘍の状態を検討する。

2. 個別学習目標：SBOs (コースにおいて学ぶこと)

- 腫瘍の発生メカニズムを説明できる。
- 腫瘍の自然史を説明できる。
- 腫瘍の診断方法を列挙できる。
- 腫瘍の治療方法を列挙できる。
- 組織学的良・悪性の判断の基本ができる。
- 腫瘍学の最新情報が入手できる。
- 診療情報の正しい取扱いができる。
- 遺体の尊厳を尊重できる。

3. 学習の進め方

- 1) オリエンテーション: コースの概略と腫瘍学(オンコロジー)という概念とその重要性について学ぶ。
- 2) PBL テュートリアル: 担当する症例についてグループで学習する。不幸な転帰をとった症例を通して、どのような腫瘍がどのような経過をとって進行し、最終的に死に至ったかを学習する。
 放射線診断フィルムと病理画像は医学分散サテライトに提示されているのでグループ学習時、あるいは個人で自由に閲覧できる。積極的にリソースパーソンにコンタクトをとって疑問点を話し合うこと。なお放射線フィルムの診断は別に質問日を設ける。
 最終日前日に各グループがまとめた資料について学習し、疑問点、問題点などについて発表し討論する。
- 3) 実習: 病理実習: 症例の肉眼標本、顕微鏡標本を観察し、担当症例の肉眼像、組織像を学習する。腫瘍以外の病変も気を配って学習し、症例の全体像を把握する。
 (症例の肉眼像、組織像は医学分散サテライトにも開示されているので実習時間外でも各自学習する際の資料として使うことができる)

4) 講義 8. 講義一覧参照

4. リソースパーソン

教員名	日時 (オフィスアワー)	連絡先	場所
南 学	(放射線診断学)		
秋根康之	(放射線治療学)		
大原 潔	(放射線腫瘍学)		
徳植公一	(放射線治療学)		
野口雅之	(病理診断学)		
森下由紀雄	(病理診断学)		
加藤光保	(基礎病理学)		
植野 映	(外科学)		
寺島秀夫	(外科学)		
兵頭一之介	(腫瘍内科学)		
木澤義之	(緩和医療学)		
飯嶋達生	(病理診断学)		
坂東裕子	(外科学)		

5. 評価

- 1) 学生は評価シートに従って自己評価とコース評価を行う。
- 2) テacherはコアタイムでの各学生の参加態度等について評価する。
- 3) 各自が学習した内容をまとめて剖検報告書を作成し評価する。
- 4) 腫瘍学総論の基礎知識の習得度を試験によって評価する。

6. 教科書等

教科書

- 『病態病理学』 第17版、菊池浩吉 監修、南山堂、2004
 『ロビンス基礎病理学』 第7版、森、桶田 監訳、広川書店、2004
 『標準放射線医学』 第6版、医学書院、2001
 または『画像診断シークレット』大友 邦、南 学 監訳、MEDSI、2000
 "Radiation Oncology, Management Decisions", 2nd ed. Chao KSC, Perez CA, Brady LW eds. Lippincott Williams & Wilkins.

図譜

- 『組織病理アトラス』 第5版、飯島宗一 監修、文光堂、2004

7. 試験に含まれる項目

試験範囲は、講義、実習、テュートリアルで取り上げた項目を中心に、医学教育モデル・コア・カリキュラムの範囲とする。

8. 講義一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	癌治療体験者の話	(秋根康之)	患者の立場からの癌治療
2	癌の病理診断	野口雅之	細胞診、組織診、遺伝子診断
	各種の治療法①	植野 映	
3	各種の治療法②	寺島秀夫	手術療法
4	各種の治療法③	兵頭一之介	化学療法
5	各種の治療法④	大原 潔 徳植公一	細胞増殖死、根治/対症治療、化学放射線治療 術前/術後照射
6	各種の治療法⑤	坂東 裕子	ホルモン療法
7	緩和医療	木澤義之	緩和医療、症状コントロール、ホスピス、緩和ケア病棟
8	画像診断	植野 映	
9	分子腫瘍学	加藤光保	がん遺伝子、がん抑制遺伝子、分子標的治療
10	腫瘍疫学	未 定	
11	トピックス	未 定	
12	臨床試験	樋之津史郎	臨床研究、臨床試験、治験、GCP、ランダム化
13	インフォームドコンセント	木澤義之	インフォームドコンセント、患者の権利、臨床試験、アドバンス・ケア・プランニング

8. 実習一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	病理実習1～2	森下由紀雄 飯嶋達生	生検、手術材料
2	病理実習3～6	森下由紀雄 飯嶋達生	剖検材料

9. 時間割

	月	火	水	木	金
	12月11日	12月12日	12月13日	12月14日	12月15日
1	専門外国語／基礎科目		専門外国語／基礎科目		#10 オリエンテーション ()
2					体験談、ビデオ (臨床講義室 A) (秋根)
3	試験	試験	試験	試験	コアタイム1
4	#6 小児の成長と発達	#7 感覚系	#8 運動系	#9 臨床薬理	自習1
5	(13:30~15:00)	(13:30~15:00)	(13:30~15:00)	(13:30~15:00)	自習2
	12月18日	12月19日	12月20日	12月21日	12月22日
1	専門外国語／基礎科目	各種の治療法① (植野)	専門外国語／基礎科目	各種の治療法③ (兵頭)	各種の治療法⑤ (坂東)
2	癌の病理学と診断病理学 (野口(雅))	自習4	各種の治療法② (寺島)	各種の治療法④ (大原、徳植)	終末医療 (木澤)
3	自習3	グループ学習1	自習6	グループ学習2	グループ学習3
4	実習 病理実習(1)(2)	コアタイム2	自習7	自習9	コアタイム3
5	(森下、飯嶋)	自習5	自習8	自習10	自習11
	12月25日	12月26日	12月27日	12月28日	12月29日
1	専門外国語／基礎科目				
2	実習				
3	病理実習(3)~(6)		冬期休業		
4	(森下、飯嶋)				
5					
	1月8日	1月9日	1月10日	1月11日	1月12日
1	成人の日	画像診断 (植野)	専門外国語／基礎科目	分子腫瘍学 (加藤)	前コースのまとめ (野口)
2		質問コーナー (南)	発表会1	腫瘍疫学 (未定)	#1 講義1 高齢者の特徴、医療供給体制 (大久保(-)、戸村)
3		グループ学習3	発表会2	トピックス (未定)	コアタイム1
4		グループ学習4	まとめ1 (植野)	臨床試験 (樋之津)	自習
5		自習13	まとめ2 (寺島)	インフォームドコンセント (木澤)	自習

提出物

提出物	提出期限	提出先	備考
コアタイム提出シート	コアタイム当日	提出シートで指定された先生のメールボックス	チューターのサインをもらう
グループ学習まとめ	提出シートに記載		
プロダクト (発表会用ポスター)	発表終了時		発表会はポスター発表形式で行なう。
自己評価表	発表翌日の17時	教務第一	
全体発表(相互)評価表	発表翌日の17時	教務第一	

コース #11 医療と社会—保健医療福祉制度、法医学—

Coordinator	戸村成男、大久保一郎 本田克也、田中栄之介
Sub-coordinator	柳 久子、近藤正英

開講時期：M3 3 学期（1月12日(金)～1月26日(金)）

（保健医療福祉制度）

1. 一般学習目標：G I O （コースの概要）

医療人として活躍するために、日本の社会保障制度の根幹である保健・医療・福祉・介護制度の現状を理解し、これらの課題を医療提供者、支払い者、サービスを受ける側、行政側（国、地域を含む）等の多面的な視点から、把握分析する能力を高めるとともに、そのための必要な基礎知識等を身につける。

2. 個別学習目標：S B O s （コースにおいて学ぶこと）

- 1) わが国の社会保障制度の特徴について説明する。
- 2) 保健医療提供体制の概要及び課題等について説明する。
- 3) 保健医療従事者の種類とその役割等を説明する。
- 4) 医療保険制度の概要及び近年の動向等を説明する。
- 5) 国民医療費の推移やその特徴等について説明する。
- 6) 保健医療関係法規を列挙し、その概要を説明する。
- 7) 高齢者の心身の特徴と健康問題について説明する。
- 8) 高齢者の医療福祉について説明する。
- 9) 介護保険制度の概要及びその課題等について説明する。
- 10) 母子保健・小児保健・学校保健・老人保健の意義、現状と統計等について説明する。
- 11) 少子化対策と男女共同参画社会について自分の意見を言える。
- 12) 医療の質や安全性についてその現状や対策について説明する。
- 13) 医療経済学の基礎及びその分析手法を説明する。
- 14) 国際保健の概要とその課題等について説明する

3. 学習の進め方

チュートリアルはグループを3つに分け、それぞれ別の2つのシナリオを扱い、最終日にグループごとに発表する。講義7コマ（うち一つは翌週の月曜日一時限目に総括）を行う。

4. リソースパーソン

自習やグループ学習で疑問が解決しない時など、積極的に活用して下さい。

（オフィスアワーは特に設けませんので、メール等で連絡をしてください）

教員名	専門分野	連絡先（Email アドレス）	場所
戸村成男	福祉医療学		
大久保一郎	保健医療政策学		
柳 久子	福祉医療学		
近藤正英	医療経済学		
奥野純子	福祉医療学		

5. 教科書

「国民衛生の動向」 厚生省の指標 臨時増刊 厚生統計協会 最新号を使用のこと。

6. その他の学習リソース

参考書

「国民の福祉の動向」、「保険と年金の動向」いずれも厚生省の指標臨時増刊、厚生統計協会、最新号を使用。

「目で見る医療保険白書」医療保険制度研究会（編）、ぎょうせい、最新版を使用。

「厚生労働白書」厚生労働省監修、ぎょうせい、最新版を使用。

「(実務) 衛生行政六法」衛生法規研究会監修、新日本法規、最新版を使用。

「国際的視点から学ぶ医療経済学」著者：マックペイク他、東京大学出版会、ISBN: 4130421190、
価格：4,000 円、コメント：医療経済学の標準的教科書。

「国際保健医療学」著者：日本国際保健医療学会（編）杏林書院、ISBN:476440527X、価格：3,990
円、コメント：国際保健学に関わる幅広いトピックをまとめたテキスト。

7. 評価

テュートリアルについて（チューターによる評価、自己評価表、全体発表評価表、レポート）

学期末試験*試験範囲に含まれる項目：講義・実習・テュートリアルで取り上げた全ての項目

モデルコアカリキュラム P 4 6 - 4 7 参照

8. 講義一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	高齢者の特徴、医療供給体制	大久保一郎 戸村成男	医療機関、医療従事者、行政システム、保健所、生活習慣と健康、日常生活自立度（寝たきり度）、認知症、老人保健法
2	母子保健・学校保健	柳 久子	母子保健対策、母性保護、学校医、健康診断、学校伝染病、学校安全、少子化対策
3	介護保険制度	戸村成男	介護保険の仕組み・保険者と被保険者・介護保険制度サービスの種類、介護保険施設
4	医療保険制度	大久保一郎	医療保険の種類、診療報酬制度、国民医療費、医薬分業
5	医療関係法規	大久保一郎	医療法、医師法、薬事法、感染症法
6	国際保健・医療経済学	近藤正英	医療サービス、市場、政府、Primary Health Care、医療システム
7	まとめ	大久保、戸村	まとめ

(法医学)

1. 一般学習目標：G I O （コースの概要）

人間の死に臨み、あるいは死体に直面した時、医師として法や倫理に従った正当かつ適切な対応ができるように、病死、突然死、外因死などを科学的に究明し、正しく判断し行動できる技能や技術を習得する。特に社会的に重大な問題である犯罪死を正しく識別するための視点や方法、技術については、詳細に学習しかつ対処できる能力を身につける。

2. 個別学習目標：S B O s （コースにおいて学ぶこと）

- 1) 人間の生から死に至る過程および現象について理解する
- 2) 死体検案や死体解剖についての法的な手続きを理解する
- 3) 外因死と内因死を理解し、それぞれの鑑別方法について習得する
- 4) 種々の外傷とその成傷機序および死亡機序について説明する
- 5) 交通事故損傷の特徴と鑑別方法の要点を説明する
- 6) 環境要因が人体に及ぼす影響と死因との関係について理解する
- 7) 突然死の実態と背景、ならびに死因の解明方法について説明する
- 8) 嬰兒殺や乳幼児虐待、乳幼児突然死の実態と鑑別法について説明する
- 9) 薬毒物による中毒死の実態を理解し、検出技術の基礎を習得する
- 10) 血液型とDNA型鑑定法の技術を習得する
- 11) 白骨からの個人識別法の基礎を理解する
- 12) 死体検案、司法解剖の実際と死体検案書の書き方を習得する

3 学習の進め方

医師として死に対処する法的な手続きを厳正に行えるための知識や態度を、講義およびPBLチュートリアル（2課題）、グループ学習により習得する。本来は法医学は医学の応用分野であるにもかかわらず、臨床医を目指すほとんどの学生にとっては、法医学を医学と切り離して考えるか、単なる興味本位に流れやすい傾向にもなりがちなので、病死以外の死因について学ぶ法医学の学習も必須であることを

理解させる。また死亡した人に対して、死因をきちんと究明することを、医師の業務に含まれることを、法医学への動機づけとして導入する。

1) PBL チュートリアル

テーマ1では、新聞で報道されるレベルの事実を提示し、死体の死後変化、個人識別、死因、外因死の種別（事故死、自殺、他殺）の判定についての課題を抽出させ、必要な方法について学ぶ。またその背後にある法的制度についても着目させる。

テーマ2では、死体検案を行った後の所見を提示し、さらに進んで個人識別や死因の判定のための検査法（血液型、DNA 検査、法医解剖や血液検査、病理組織検査）についての理解を深める。

2) グループ学習

テーマから抽出した課題について学習した知識を共有し、グループで討論しつつ、学習を深める。

3) 全体討論とまとめ

学習した内容について、それぞれのグループで資料を提示して発表し、グループ相互で学習した知識を共有し、質疑応答に答える。発表時間は5分である。全体の時間が限られているため、発表の内容の可否や重複等を考慮し、Coordinator が適宜、時間調整を指示して、テーマを整理する。最後に発表へのコメントと総括を Coordinator が行う。

4) 講義 講義一覧参照

4 リソースパーソン

本田克也（法医学、DNA 鑑定法）

場所

日時

メール

コース期間、あるいはその他の時間で、司法解剖の見学を希望する人は申告してください

田中栄之介（法医中毒学）

場所

日時

メール

5 教科書とその他の学習リソース

法医学の教科書は、明治以来に導入されたドイツの法医学の訳本が底版となっているため、どの邦書もほとんど違いはなく、教科書としてどれを用いても問題はない。いずれも必要な知識は学べるようになっているので、何か一冊は通読することが望ましい。またより専門的に学びたい学生にとっては、その他のリソースを薦める。

教科書

- 1) Saukko and Knight, Knight`s Forensic pathology, Oxford University Press
- 2) 若杉長英、法医学、金芳堂
- 3) 上山滋太郎ほか、標準法医学・医事法、医学書院
- 4) 薬毒物試験法と注解 2006、東京化学同人

その他

- 1) 西丸与一、法医学教室の午後、朝日新聞社
- 2) 上野正彦、死体は語る、時事通信社
- 3) 小杉健治、最終鑑定、集英社
- 4) Anthony T.Tu, 身の回りの毒、東京化学同人
- 5) 三澤章吾、法医学事件ファイル/変死体・殺人事件、日本文芸社
- 6) 三澤章吾、悪を暴く法医学・殺人捜査、日本文芸社

6 評価

チュートリアルでの出席と評価、グループ発表での評価、コース試験によって評価する。

8. 講義一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	法医学入門一生から死へ	本田 克也	死の判定、早期死体現象、晩期死体現象、死後経過時間、生活反応、検案と解剖、死の取り扱い方
2	外力による死因の鑑別	本田 克也	鋭器損傷、鈍器損傷、射創、交通事故、転落死、焼死、凍死、感電死、業務上過失致死
3	窒息死の鑑別	本田 克也	縊死、絞死、扼殺、溺死、酸欠死
4	突然死の鑑別とその実態	本田 克也	乳児と成人の内因性急死、急性心臓死、失血、脳出血
5	薬物中毒	田中 栄之介	急性中毒、乱用薬物、解毒剤
6	個人識別と検死制度	本田 克也	血液型、DNA 鑑定、親子鑑定、犯罪捜査、骨の鑑定、監察医制度、行政解剖、死体検案書の書き方
7	総括	本田 克也 田中 栄之介	死因の判定法とその根拠外因死と内因死の鑑別、外因死の自他殺の鑑別

10. 時間割

	月	火	水	木	金
	1月8日	1月9日	1月10日	1月11日	1月12日
1	成人の日	画像診断 (植野)	専門外国語/基礎科目	分子腫瘍学 (加藤)	前コースのまとめ (野口)
2		質問コーナー (南)	発表会 1	腫瘍疫学 (未定)	#1 講義I 高齢者の特徴、医療供給体制 (大久保(-)、戸村)
3		グループ学習 3	発表会 2	トピックス (未定)	コアタイム 1
4		グループ学習 4	まとめ 1 (植野)	臨床試験 (樋之津)	自習
5		自習 13	まとめ 2 (寺島)	インフォームドコンセント (木澤)	自習
	1月15日	1月16日	1月17日	1月18日	1月19日
1	専門外国語/基礎科目	自習	専門外国語/基礎科目	グループ学習	
2	講義2 母子保健・学校保健 (柳(久))	講義4 医療保険制度 (大久保(-))	グループ学習	グループ学習	
3	講義3 介護保険制度 (戸村)	グループ学習	講義5 医療関係法規 (大久保(-))	発表	入試準備
4	グループ学習	コアタイム 2	講義6 国際保健・医療経済学 (近藤(正))	発表	
5	自習	自習	グループ学習		
	1月22日	1月23日	1月24日	1月25日	1月26日
1	専門外国語/基礎科目	自習	専門外国語/基礎科目	自習	講義6 個人識別と検死制度 (本田)
2	前コースのまとめ (大久保、戸村)	自習	講義3 窒息死の鑑別 (本田)	グループ学習	グループ学習
3	講義1 法医学入門・生から死へ (本田)	講義2 外力による死因の鑑別 (本田)	グループ学習	講義4 突然死の鑑別とその実態 (本田)	発表
4	コアタイム 1	グループ学習	コアタイム 2	講義5 薬物中毒 (田中(栄))	
5	自習	自習	自習	グループ学習	総括 (本田、田中(栄))

提出物

提出物	提出期限	提出先	備考
コアタイム提出シート (シナリオ 1)	コアタイム当日	教務第一	チューターのサインをもらう
グループ学習まとめ	提出シートに記載		
コアタイム提出シート (シナリオ 2)	コアタイム当日	本田克也 先生の メールボックス	チューターのサインをもらう
グループ学習まとめ	提出シートに記載		
自己評価表	発表翌日の 17 時	教務第一	
全体発表(相互)評価表	発表翌日の 17 時	教務第一	

コース #12 精神系

Coordinator 朝田 隆、中谷 陽二
Sub-coordinator 佐々木恵美、堀 孝文
川西洋一、森田 展彰

開講時期：M3 3 学期（1月29日(月)～2月9日(金)）

1. 一般学習目標：G I O（コースの概要）

こころの時代である 21 世紀に、主体的な精神医療への関わりができるように、精神医学と精神医療の概要を理解し、必要な知識・技能・態度を習得する。

2. 個別学習目標：S B O s（コースにおいて学ぶこと）

- 1) 精神症状のとらえ方の基本を身につける。
- 2) 精神症状や状態像を把握し、専門用語で記載ができる。(知識)
- 3) 精神の働きと脳の関連について説明できる。(知識)
- 4) 主な精神障害の概念、症候、診断、治療について説明できる。(知識)
- 5) 心理検査、脳画像検査、脳波について学習する。(技能)
- 6) 向精神薬の薬理作用や副作用、相互作用を理解し、薬物療法の基本を学ぶ。(知識)
- 7) 精神療法について学習し、体験する。(技能)
- 8) 患者、家族の問題について、医療チームの一員として医療スタッフ、保健、福祉関係者と討議し、コミュニケーションをとることができる。(態度)
- 9) コンサルテーション・リエゾン精神医学を学ぶ。(知識)
- 10) 精神障害の疫学について説明できる。(知識)
- 11) 精神科関連法について理解する。(知識)
- 12) 精神保健活動に関心を示し(態度)、精神障害者の社会復帰や福祉制度・施設について説明できる。(知識)
- 13) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。(態度)

3. 学習の進め方

精神医学総論では精神障害の基本的な概念、分類を学び、コースのオリエンテーションを行う。

チュートリアルで4症例（統合失調症、気分障害、認知症、アルコール・薬物依存症の事例）をとりあげ、実際の診断および臨床に必要な知識や考え方を身につける。さらに講義では提示事例以外のトピックスを含む精神障害の学習を行う。また、実習では小グループで体験的な学習を行うとともに、患者本人や現場の援助者の声についてお話を聞く機会を持つ。

コアタイム1～2ではシナリオ1をグループ1～7、シナリオ2をグループ8～14が担当する。コアタイム3～4ではシナリオ3をグループ1～7、シナリオ4をグループ8～14が担当する。

シナリオから抽出したポイントについて、自主的に目標を設定、学習テーマを立案して、グループ学習の時間に討議して、教科書・書籍・インターネット情報などを用いて学習し、成果をまとめる。

総合討論では、グループで学んだシナリオの事例やそこから抽出された学習項目について発表し、別のシナリオを用いたグループも質疑・討論に参加し情報をシェアする。総合討論後に行われる事例に関連する講義を通じ、知識を整理する。

4. リソースパーソン

自習やグループ学習で疑問が解決しない時など、積極的に活用して下さい。

教員名	連絡先 (Email、PHS)	場所	オフィスアワー
-----	-----------------	----	---------

精神医学（臨床医学）

朝田 隆（教授）
水上 勝義（助教授）
堀 正士（助教授）
佐々木 恵美（講師）
堀 孝文（講師）
谷向 知（講師）
川西 洋一（講師）
河合 伸念（講師）

精神保健（社会医学）

中谷 陽二(教授)
 佐藤 親次(助教授)
 森田 展彰(講師)

5. 教科書

現代臨床精神医学：大熊 輝雄（著）金原出版；ISBN: 4307150597；改訂第10版（2005/03）
 標準精神医学 STANDARD TEXTBOOK, 野村 総一郎（編集），樋口 輝彦（編集）医学書院；
 ISBN: 4260118978；第3版 版（2005/04）

6. その他の学習リソース

- ・DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引 American Psychiatric Association, 高橋 三郎, 大野 裕, 染矢 俊幸, 医学書院；ISBN: 4260118862；新訂版（2003/08）
- ・我が国の精神保健福祉—精神保健福祉ハンドブック（平成16年度版）精神保健福祉研究会, 太陽美術；ISBN: 4906276679；平成16年度版（2005/10）
- ・精神保健福祉白書〈2006年版〉転換期を迎える精神保健福祉：精神障害者社会復帰促進センター，全国精神障害者家族会連合会，精神保健福祉白書編集委員会（編集）：中央法規出版；ISBN: 4805826568；2006年版
- ・カプラン臨床精神医学テキスト DSM - IV - TR 診断基準の臨床への展開、ベンジャミン・J. サドック，バージニア・A. サドック（編著），メディカルサイエンスインターナショナル；ISBN: 4895923843；第2版 版（November 2004）
- ・臨床精神医学講座（シリーズ），松下 正明，牛島 定信，小山 司，三好 功峰，浅井 昌弘，倉知 正佳，中根 允文（編集），中山書店

財団法人全国精神障害者家族会連合会（略称：全家連）<http://www.zenkaren.or.jp/>
 National Institute of Mental Health：<http://www.nimh.nih.gov/>
 National Institute of Mental Health in England: <http://nimhe.csip.org.uk/home>

7. 評価

チューターの先生による評価表、コアタイム提出シート、グループ発表、自己評価表
 テュートリアルレポート、学期末試験

8. 講義一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	精神医学総論・オリエンテーション	朝田 隆	精神科診断学、生物学的精神医学、操作的診断、司法精神医学
2	精神医学的診断のたて方	水上 勝義	神経病理、神経化学、神経生理、精神病理
3	精神障害の分子遺伝学	川西 洋一	関連研究、連鎖研究、SNPs、エビジェネティクス
4	精神症状学1	河合 伸念	知覚・思考・感情・意欲の障害
5	精神症状学2	佐々木 恵美	行動・記憶・意識・知能の障害
6	精神障害の現状と法・制度について	中谷 陽二	精神障害の疫学、予防精神医学、精神保健福祉法、成年後見
7	睡眠・覚醒障害	堀 正士	神経症性不眠、ナルコレプシー、周期性傾眠症、睡眠相後退症候群
8	心理的評価の基本	朝田 隆	性格検査、神経心理検査
9	神経症と人格障害	佐々木 恵美	パニック障害、強迫性障害、転換性障害、解離性障害、適応障害、PTSD、人格障害
10	精神科治療	堀 孝文	精神療法、向精神薬、電気けいれん療法、社会療法
11	地域・家庭・職場における精神保健福祉	佐藤 親次	精神保健福祉センター、社会復帰施設、保健所、保健センター、労働ストレス、災害・犯罪被害者、家庭のライフイベントに関するストレス（周産期、子育て、更年期），
12	児童・青年期の精神障害	森田 展彰	学校保健法、不登校、社会的引きこもり、非行、発達障害、子ども虐待、薬物乱用

	学習項目	担当教員	Keywords
13	器質性精神障害	水上 勝義	器質性精神障害、症状精神病、コンサルテーション・リエゾン精神医学
14	統合失調症・気分障害	堀 孝文	内因性精神障害、陽性症状、陰性症状、抗精神病薬、躁うつ病、抗うつ薬
15	精神の老化と認知症	谷向 知	アルツハイマー病、ピック病、画像診断、神経心理学、危険因子、BPSD への介入、介護保険

9. 実習一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	精神科面接	川西洋一	傾聴、共感、支持的療法、病歴聴取、精神症状の把握
2	心理検査	森田展彰	半構造化面接、心理テスト、認知行動療法、動機付け面接法
3	障害者の自立を考える	朝田隆	社会復帰施設、地域生活支援センター、精神保健福祉センター、障害者自立援助法
4	薬物依存症者社会復帰施設	茨城ダルク施設長	薬物依存症、自助グループ

10. 時間割

	月	火	水	木	金
	1月29日	1月30日	1月31日	2月1日	2月2日
1	専門外国語／基礎科目	自習	専門外国語／基礎科目	実習 ビデオ実習(精神科面接) (川西)	心理的評価の基本 (朝田)
2	#12 精神医学総論・オリエンテーション (朝田)	自習	自習	自習	グループ学習
3	コアタイム	精神疾患の分子遺伝学 (川西)	グループ学習	自習	総合討論
4	事例①-1,②-2の提示 精神医学的診断のたて方 (水上)	精神症状学1 (河合)	コアタイム 事例①-2,②-2の提示 精神障害の現状と法・制度について (中谷)	自習	
5	自習	精神症状学2 (佐々木)	実習 心理検査 (森田)	統合失調症・気分障害 (堀(孝))	
	2月5日	2月6日	2月7日	2月8日	2月9日
1	専門外国語／基礎科目	自習	専門外国語／基礎科目	睡眠・覚醒障害 (堀(正))	自習
2	神経症と人格障害 (佐々木)	自習	自習	自習	グループ学習
3	児童・青年期の精神障害 (森田)	自習	グループ学習	グループ学習	総合討論
4	テュートリアル 事例③-1,④-1の提示 精神科治療 (堀(孝))	地域・家庭・職場における精神保健福祉 (佐藤(親))	テュートリアル 事例③-2,④-2の提示 器質性精神障害 (水上)	グループ学習	
5		実習 薬物依存症者社会復帰施設の方の話 [茨城ダルク施設長]	実習 障害者の自立を考える (河合)	精神の老化と認知症 (谷向)	

提出物

提出物	提出期限	提出先	備考
コアタイム提出シート (シナリオ1)	コアタイム当日	朝田隆 先生のメールボックス	チューターのサインをもらう
グループ学習まとめ	提出シートに記載		
コアタイム提出シート (シナリオ2)	コアタイム当日	中谷陽二 先生のメールボックス	チューターのサインをもらう
グループ学習まとめ	提出シートに記載		
心理テスト実習レポート	2月2日(金)17時	森田展彰 先生のメールボックス	自分の心理テストの結果をまとめる
レポート	2月7日(水)17時	森田展彰 先生のメールボックス	薬物依存症社会復帰施設の方のお話についての感想をレポートする
自己評価表	発表翌日の17時	教務第一	
全体発表(相互)評価表	発表翌日の17時	教務第一	

コース#13 医療と環境

Coordinator	我妻ゆき子、石井哲郎、 熊谷嘉人、土屋尚之
Sub-Coordinator	松崎一葉、谷川武、岡田昌史、 笹原信一朗、山岸良匡

開講時期：M3 3学期 2週間；2月13日（火）～28日（水）

1. 一般学習目標 (GIO)

臨床実習を行う前に、医療・健康福祉サービスを理解するための基礎知識として、人を取り巻くさまざまな環境を理解し、疾病の成因とその予防を考える事が出来るために、環境と人間の相互作用について、講義、演習さらにテュートリアルを用いた自主学习を通して学ぶ。

2. 個別学習目標 (SBOs: コースにおいて学んで欲しいこと)

- ・疫学的要因（病院、宿主、環境）にもとづき、記述疫学と分析疫学について概説できる。(知)
- ・横断研究、コホート研究、観察研究、介入研究の手法を概説できる。(知)
- ・生物／物理／化学的環境の代表的な要因について、健康・障害との関連を概説出来る。(知)
- ・環境と健康・疾病との関係（環境と適応、主体環境系、原因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全）を概説できる。(知)
- ・食品衛生について、法律体系にのっとり概説できる。
- ・職場環境と健康について、作業環境管理、作業管理、健康管理の3つの視点から概説できる。(知)
- ・社会環境と健康について、生活習慣ならびに遺伝子との関連で概説できる。(知)
- ・環境問題について、人権や倫理に配慮した取り扱いができる。(態度)
- ・疫学データの収集と管理につき、倫理的問題・個人情報保護に配慮した取り扱いができる。(態度)
- ・医療と環境の課題に関連する基本的な統計学的解析ができる。(技術)
- ・疫学の基本知識をもとに、横断研究・コホート研究・観察研究および介入研究デザインを作成することができる。(技術)

3. 学習の進め方

医療と環境のコースは、2テーマのテュートリアル29コマ(自習等含む)、講義17コマからなる。テュートリアルの内容と関連させながら、講義が計画されている。また、講義・演習では基本的な疫学の知識を活かし学習する。

テュートリアルは2つのシナリオが併行する形で進行する。各回のコアタイムの前には、グループ討論の時間が設けられているので、この時間を利用して、前回のコアタイム以降に調べたことの情報グループ内で共有し、新たな課題を抽出する。各回のコアタイムにおいては、抽出された課題を話し合い、新たなシナリオを受け取りその内容、次回までの学習事項を検討する。ひとつのテーマ毎に発表会と総括講義(2コマ)が設定されている。

発表会場は2会場とし、各グループが10分で発表を行う。総括講義では、発表・討議内容をまとめ、要点を補足説明する。

4. リソースパーソン

自習やグループ学習で疑問が解決しない時など、積極的に活用して下さい。「事前に連絡をして」からお願いします。

教員名	専門分野	オフィスアワー	連絡先 (PHSおよびEmail アドレス)
我妻ゆき子	疫学		
石井哲郎	環境分子生物学		
熊谷嘉人	環境医学		
土屋尚之	社会健康医学		
高橋秀人	疫学		
谷川武	社会健康医学		
松崎一葉	環境保健学		
山本弘明	環境保健学		
岡田昌史	疫学		
笹原信一朗	環境保健学		
角大悟	環境医学		
山岸良匡	社会健康医学		
藤英治	環境分子生物学		

5. 教科書

スタンダード公衆衛生学、眞野喜洋編、文光堂

衛生薬学新論、井上圭三ら編、南山堂
 環境医学入門、レナート・メラー編、中央法規
 柳川洋 中村好一 編 公衆衛生マニュアル 南山堂 (毎年出版)
 日本疫学会 監修 はじめて学ぶやさしい疫学―疫学への招待― 南江堂 (2002)
 Stephen B. Hulley, 医学的研究のデザイン - 研究の質を高める疫学的アプローチ
 メディカルサイエンスインターナショナル(2004)
 Kenneth J. Rothman, ロスマンの疫学 - 科学的思考への誘い 篠原出版新社(2004)
 生活習慣病予防マニュアル (大野良之、柳川洋編著, 南山堂)
 今日の疫学 (川上憲人、甲田茂樹編著, 医学書院)

6. その他の学習リソース

統計学自習ノート(群馬大学 青木先生による)
<http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/lecture/index.html>
 医学情報処理演習シラバス (群馬大学 中澤先生による)
<http://phi.med.gunma-u.ac.jp/medstat/>
 EBM のための臨床疫学入門講座(日本大学医学部公衆衛生学教室 EBHC 研究班による)
http://www.med.nihon-u.ac.jp/department/public_health/ebm/c-epi.html
 厚生労働省研究班による多目的コホート研究
 (国立がんセンター、<http://epi.ncc.go.jp/jphc/>)

7. 評価

テュートリアル (チューターによる評価、自己評価表、全体発表評価表)
 疫学演習 (課題評価)
 学期末試験 (SBO に掲げた全ての項目はテスト範囲に含まれます)

8. 講義一覧

	学習項目	担当教官	Keywords
1	疫学の指標と基礎統計	高橋秀人	疫学, 因果関係, 罹患率, 死亡率, 年齢調整死亡率, 生命表, 研究デザイン, 観察研究, 介入研究, バイアス, 交絡因子
2	科学的実証手段としての疫学手法: ①患者対照研究	岡田 昌史	患者対照研究, オッズ比, マッチング, 信頼区間, 独立性の検定
3	科学的実証手段としての疫学手法: ②コホート研究	岡田 昌史	コホート研究, コホート内症例対照研究, 相対危険度, 寄与危険度
4	その他の臨床研究デザインとクリニカルトライアル	我妻 ゆき子	クリニカルトライアル, 治験, 無作為割り付け, 盲検化, RCT, インフォームドコンセント, ヘルシンキ宣言
5	循環器疾患の疫学と予防	山岸良匡	生活環境, 脳卒中, 虚血性心疾患, 高血圧, 高脂血症, 耐糖能異常, リスクファクター, 環境変化, 遺伝的要因, 一次予防, 二次予防, 三次予防, 健康教育
6	がんの疫学と予防	井上真奈美 (国立がんセンター)	がん, 生活習慣, 要因, 予防, スクリーニング, 喫煙, 食習慣
7	生活習慣病対策	谷川武	対策組織, 対策の評価, 保健・医療・福祉の連携, 循環器疾患基礎調査, 糖尿病実態調査, 老人保健法, 地域保健法, 健康増進法
8	多因子疾患	土屋尚之	多因子疾患, common disease, 遺伝子因子, 環境因子, 多型, SNP, ヒトゲノム解析
9	食中毒・食品衛生	熊田薫 (つくば国際短期大学)	原因食品, 病因物質, 原因施設, 細菌性食中毒, ウイルス性食中毒, 自然毒, 動物毒, 植物毒, 化学物質, 食品衛生法, 経口感染症, 人畜共通感染症, 感染症法, 安全性試験, 食品添加物, 遺伝子組替え食品, 健康食品, 毒性, 変異原性, 発癌性, 一日許容摂取量 (ADI), 最大無影響量 (NOEL), 総合的衛生管理製造過程 (HACCP)
10	有害動物	山本弘明	吸血害虫, 有害動物, 刺咬毒, 接触毒, アレルゲン, 伝播, 媒介, 病原体保有動物, 中間宿主

	学習項目	担当教官	Keywords
11	環境（大気、水）と健康	熊谷嘉人	大気汚染物質、大気汚染推移、環境基準、地球環境、残留塩素、トリハロメタン、水質基準、環境被害
12	環境化学物質と健康	角大悟	外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）、ダイオキシン、Ah レセプター、生殖毒性
13	生活環境と公害・環境保全対策	笹原信一朗	化学物質の安全対策、有害な廃棄物対策、環境基本法、大気汚染防止対策、水質汚濁防止対策、公害健康被害補償制度
14	化学環境因子による健康障害と許容濃度	石井哲郎 藤栄治	ガスによる中毒、有機溶剤による中毒、金属による中毒、量一反応関係、許容濃度、管理濃度、TLV、ACGIH
15	物理的・心理的環境因子による健康障害	笹原信一朗	熱中症、異常気圧、職業性難聴、振動障害、頸肩腕症候群、職場のストレスモデル、過剰適応、タイプ A
16	産業保健	松崎一葉	職業病、職業癌、じん肺、重金属中毒、有所見者
17	職場の 3 管理と労働衛生行政	松崎一葉	労働安全衛生法、定期健康診断、特殊健康診断、事後措置、労災保険

9. 時間割

	月	火	水	木	金
	2月12日	2月13日	2月14日	2月15日	2月16日
1	建国記念日	コース概要	専門外国語／基礎科目	講義 3 科学的実証手段としての疫学手法：（岡田）	自習
2		講義 1 疫学の指標と基礎統計（高橋(秀)）	自習	講義 4 その他の臨床研究デザインとクリニカルトライアル（我妻）	講義 7 生活習慣病対策（谷川）
3		講義 2 科学的実証手段としての疫学手法①（岡田）	講義 5 循環器疾患の疫学と予防（山岸）	グループ学習	講義 8 多因子疾患（土屋）
4		コアタイム 1	講義 6 がんの疫学と予防 [井上(国立がんセンター)]	コアタイム 2	講義 9 食中毒・食品衛生 [熊田(つくば国際短期大学)]
5		グループ学習	グループ学習	グループ学習	グループ学習
	2月19日	2月20日	2月21日	2月22日	2月23日
1	専門外国語／基礎科目	自習	専門外国語／基礎科目	自習	入試準備
2	講義 10 有害動物（山本(弘)）	自習	自習	講義 12 環境化学物質と健康（角）	
3	講義 11 環境(天気,水)と健康（熊谷）	グループ学習	講義 15 物理的・心理的環境因子による健康障害(笹原)	講義 14 化学環境因子による健康障害と許容濃度（石井(哲),藤)	
4	講義 13 生活環境と公害・環境保全対策（笹原）	コアタイム 3	講義 16 産業保健（松崎(一)）	グループ学習	
5	自習	グループ学習	講義 17 職場の 3 管理と労働衛生行政（松崎(一)）	グループ学習	
	2月26日	2月27日	2月28日	3月1日	3月2日
1	入試	グループ討議	専門外国語／基礎科目		
2		グループ討議	自習		
3		発表・まとめ	自習		試験
4		総括講義	自習		#10 腫瘍学総論 (13:30~15:00)
5		総括講義	自習		#11 医療と社会 (13:30~15:00)

提出物

提出物	提出期限	提出先	備考
コアタイム提出シート	コアタイム当日	笹原信一朗 先生 のメールボックス	チューターのサインをもらう
グループ学習まとめ	提出シートに記載		
発表のまとめ（メディア）	2月26日(月)		ガイダンスで指示
レポート	2月28日(水)16時	教務第一	ガイダンスで指示
自己評価表	発表翌日の17時	教務第一	
全体発表(相互)評価表	発表翌日の17時	教務第一	